

患者スピーカー・アンケート（30名）

各項目を読み、当てはまるものに✓を付けて下さい

1. あなたの職種は？

教育職 (6) 看護師 (8) メディカルスタッフ (9) 事務 (6) その他 (1)

2. 日常の業務中に患者さんやその家族と業務を遂行する上で、意思・意見の不一致を感じることはありますか？

ある (27) ない (2) 日常、患者さんやその家族と接点がない (1)

3. 院内で取り組んでいる患者さんとその家族を含めたイベント・セミナー・サロンなどに参加されていますか？

参加している (3) 参加していない (27)

5. 患者スピーカーの講演について

—a 講演者が“伝えたいこと”は伝わり（受け取れ）ましたか？

加藤氏	<input type="checkbox"/> 伝わった (30)	<input type="checkbox"/> まあまあ伝わった (0)	<input type="checkbox"/> 余り伝わらなかった (0)	<input type="checkbox"/> 伝わらなかった (0)
島村氏	<input type="checkbox"/> 伝わった (29)	<input type="checkbox"/> まあまあ伝わった (1)	<input type="checkbox"/> 余り伝わらなかった (0)	<input type="checkbox"/> 伝わらなかった (0)
古矢氏	<input type="checkbox"/> 伝わった (30)	<input type="checkbox"/> まあまあ伝わった (0)	<input type="checkbox"/> 余り伝わらなかった (0)	<input type="checkbox"/> 伝わらなかった (0)

—b 各演者の講演内容（テーマ）についてどう思われましたか？

加藤氏	<input type="checkbox"/> 良かった (29)	<input type="checkbox"/> まあまあ良かった (1)	<input type="checkbox"/> 余り良くなかった (0)	<input type="checkbox"/> 良くなかった (0)
島村氏	<input type="checkbox"/> 良かった (29)	<input type="checkbox"/> まあまあ良かった (1)	<input type="checkbox"/> 余り良くなかった (0)	<input type="checkbox"/> 良くなかった (0)
古矢氏	<input type="checkbox"/> 良かった (29)	<input type="checkbox"/> まあまあ良かった (1)	<input type="checkbox"/> 余り良くなかった (0)	<input type="checkbox"/> 良くなかった (0)

患者スピーカーの講演で印象に残ったことはありますか。ありましたらご記入ください

- やはり Pt が他者を求めていること
- Ns という役割、すごく意味がある存在であること。
- 考えてもいなかった気持ちがあることを知った。
- 古矢さんのお話が患者さんとしてと同時に看護師としての在り方、気持ちが聞けて良かった。
- お三方、生き生きしていて素晴らしいと思った。
- 病気が良くなって良かったという言葉が嫌悪したくなるものとして届くことがあること。
- 自分の病気が悪くなった（加藤さんの点滴）は自分のせいだと感じてしまうこと。
- 患者さんが ENT 後に精神的に病むことがある。
- 患者さんは良い薬と同じように「言葉」が大きな薬の時がある。
- すべてのお話が自分を見直すきっかけになりました。
- 島村さんの退院後の思いの経過を聴けて良かった。
- 沢山、メモさせていただきました。

- 心の回復に5年ということ。
- 理解が心の回復を促すということ。
- 患者さんも、医療スタッフも自己肯定感が大切かなと思いました。
- 退院後の患者さんの気持ちが聴けて良かったです。
- それぞれの方の生き方を感じました。
- 患者さんが思いを打ち明けてくれるとき、スタッフに心を預けていると話されていて、心に響きました。
- こちらが良かれと思ってやっていることでも言葉が足りないと患者さんは誤解したりして、お互いの気持ちが擦れ違ふことがあるのだと思いました。当たり前と思ってやっていることでもきちんとそれを伝えていくことや、患者さんが何を考えているのか、何を思っているのかを訊いていくことが大切であると感じました。医療者の立場としてだけでなく、人として接すること、相手を知りたいと思う気持ちを伝えることが大切だと思いました。とても3名の講演は感動して、心に残りました。貴重なお話をして頂きありがとうございました。
- 体の治療は1年、心の治療は5年ということに驚きました。
- 「理解する」大切さを知ることができました。
- 島村さんの講演の中で、白血病の治療をされて退院した後の方が気持ちがふさぎ込むようになったとお聞きして正直驚いてしまいました。
- 病気が治って良かったという言葉は必ずしも皆さんにかけて良い言葉ではない。その言葉がプレッシャーになってしまっていること。
- 皆さんの強さが印象的でした。しかし、そのきっかけが、人とのつながりや何気ない言葉というの印象に残りました。
- また、自己肯定の大切さにも気付かされました。逆に自分が励まされた気がしました。
- スタッフの思いと、患者の気持ちは必ずしも一致していない。
- 印象に残った言葉があります。たった一つの言葉が救いになる。会話は人と人をつなぎ、安らぎをくれる。
- ENT 後に病院に戻りたいと思うことがある。
- 患者さんの本当の気持ちは、私の想像を超えていました。
- 余りにも講演の内容が深すぎて言葉がありませんでした。
- すごい人生でした。内容が豊かすぎて考えさせられる事ばかりでした。
- 誰もが誰かを支えられる。やさしく強い言葉だと思いました。
- 気持ちの回復には5年、医療スタッフとしてどのように患者に接すればいいのだろう。理解とはどういうことだろう。先ず、話を聞くこと、話をする事、1人じゃないと思えることが大切なのか。「あなたはあなたでいい」今やるべきことをやる。
- 退院後も心の回復までに時間が必要となるというお話。
- 「会話は人と人をつなぎ、安らぎを与えてくれる」印象に残った言葉でした。
- たった一つの言葉が救いになる。
- たくさんありますが、「待っているよ」とか、一見何でもないような言葉でもいつもそばにいる医療者の方に言うだけで、とても支えになるのだなということが印象に残りました。
- 患者さんが非常にポジティブであること。
- 過去の辛い思いを勇気を持って話せる姿。
- 自分を認めることの大切さがとても大きく心に残りました。
- 人としての生き方で、「誰かを支える自分に気づく」ということが、大事と感じた。
- 現実と向き合い、一緒に同じ目的に向かうことで、患者さんの力になることが分かりました。

□患者スピーカーに語って欲しいことがありましたらご記入ください

- 語って欲しいということより、そのままの経験でいいです。
- たくさんの方の話を聞いてみたいと思った。
- もっと1人1人の時間が長くてもよいと思った。

- 今日のような具体的な体験を聴きたい。
- 生きがいに繋がるエピソード。
- また違った疾患、体験を聴いてみたいと思いました。
- 現在、前向きに頑張っていると思います。ここに至るまでの過程で一番辛かったのはどんな時だったのか、その時、どうして欲しかったか。
- 医療者に対する素直な言葉を教えていただきたい。
- 自分がリハビリの職種なので、リハビリを行って感じたことを語って下さると嬉しいです。
- 貴重な体験ですので、色々な方の話を聞きたいと思いました。
- (病院に対して) 直に言って欲しい事を発表して欲しい。
- ありがとうございました。
- 自分の夢、これからの希望を聞いてみたかったです。
- もう少し、具体的に落ち込んでしまった、立ち直ったことがあれば、お話をしたいです。

6. ワールドカフェについて

ーa ワールドカフェはいかがでしたか

- 大変良かった まあまあ良かった 余り良くなかった 良くなかった
 (25) (4) (0) (0)

ーb 各テーブルに患者スピーカーが同席することについて評価して下さい

- 大変良いと思う 居ないよりは良いと思う 余り良くない 居ない方が良い
 (28) (1) (0) (0)

ーc 患者スピーカーから患者の立場で思っていること、感じていることを聞けましたか？

- 聞けた 聞けなかった
 (26) (3)

□ 「聞けた」方は、聞けた内容について、できるだけ簡便に幾らかあげて下さい

- 人との関わりは重要。
- 人とのつながりの中で、患者さんが生きる希望や意欲を持っていたこと。
- とても心に届く発表でした。
- 医療者としての立場、ふるまい、姿勢。
- 自分自身に抱いていたイメージが一転することが、とても怖いと思うこと。
- 患者は医療スタッフと話をしたい。
- 患者の看護では ENT がゴールではない。
- 思っていることを飾らずに隠さずに語っていただけたと思いますが、グループワークの中でももう少し話ができると良いと思いました。
- スタッフに訊いていいのかな…とあって遠慮してしまう。
- スタッフ同士の関係性や雰囲気、忙しさは患者に伝わっている。
- 「患者は簡単に心を開かない」というのは、患者さん目線でないと聞けない話だと思います。
- 患者さんとしての気持ちです。
- 思っても言えないこと、言わないことがあるということを心に留めていきます。
- 患者の本音の部分は貴重な体験でした。
- 言葉の力を感じた。
- 患者が思っている本音は、医療者の常識ではないことがある。
- もう少し、また別の機会などで、詳しく感じられたらと思います。
- 何気ない言葉の大切さ。
- 治療中の気持ちと本当の希望。
- 医療スタッフに気を使っている。
- 言いたいことを我慢している。
- 入院中の考え方、退院後の気持ち。

- ・普段の業務では、考えていなかった感情を知ることができました。
- ・先ず、見守って欲しい、ということ。(いきなり手を貸そうとしない)
- ・患者さんは簡単に心を開かない。
- ・治すことだけが医療ではない。
- ・病院内でのコミュニケーションの良し悪しは、伝わっている。
- ・遠慮なく言えることで、コミュニケーションがとれるのだということが分かりました。

7. 研修全体での有意義度を評価して下さい

- 大変有意義 (24)
 それなりに有意義 (5)
- 余り有意義ではなかった (0)
 全く有意義ではなかった (0)

8. 今回の研修目標到達に関わる 4 項目について、現時点での到達できる自信度を表して下さい

研修目標「患者を知り、今の職務の可能性に気づき、業務へのモチベーションを高める」

ー1 患者の医療者に対する気持ちのあり方を知り、関わり方を見直すこと

- 自信がある (11)
 少し自信がある (14)
 余り自信がない (4)
 自信がない (0)

ー2 患者との対話を通して、医療者への真のニーズに気づくこと

- 自信がある (3)
 少し自信がある (20)
 余り自信がない (5)
 自信がない (0)

ー3 患者と共に内省（リフレクション）することで、自分の職務を新たな視点から省みること

- 自信がある (7)
 少し自信がある (20)
 余り自信がない (2)
 自信がない (0)

ー4 明日から患者に対する態度・言葉等が変わり、患者から慕われる医療者になること

- 自信がある (10)
 少し自信がある (17)
 余り自信がない (2)
 自信がない (0)

9. 研修全体を通しての感想や“気づき”のあった方は“気づき”の内容を書いて下さい

- ・また、このような研修に出たいです。ありがとうございました。
- ・患者さんとのコミュニケーションを大切にする上では、スタッフ同士・職員同士のコミュニケーションが重要であるという意見が出たのは、「なるほど」と思えました。
- ・聴くこと、心の余裕の大切さ。
- ・共有していくことの大切さ。
- ・患者さんが元気に退院するのも、しないのも、時には医療者の言葉が大きく左右することがある。
- ・貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。
- ・コミュニケーションの重要性を改めて気づくことができました。
- ・この研修会に参加して良かったです。ありがとうございました。
- ・勝手に相手を決めつけないこと。
- ・相手を 1 人の人間として向き合うことです。
- ・会話をしてもらおう雰囲気を大事にしたい。
- ・医師も参加すると良い。
- ・他職の方々もコミュニケーションの不足を感じているようで、気持ちが一緒でした。
- ・コミュニケーションの大切さを再認識した。

- 病気の内容も患者さんのこれまでの生活も千差万別なので、個人としてとらえて接することが大切だと改めて思いました。
- 言葉の大切さ、コミュニケーション、人とのつながりの大切さを学びました。
- 「他職種の人に、積極的に質問する。挨拶をする。このような他職種の方と関わるイベントに参加する。」ということを目指そうと思いました。
- 患者さんの心の声が聞けたような気がする。
- 人それぞれ気持ちは違ってても認め合うことが大切。
- 患者の言葉を聞く機会は、職員全体で作るべきだと思います。